



## 円通寺の借景

弁護士 茶木 真理子  
chaki@oike-law.gr.jp

みなさんは京都市左京区岩倉にある円通寺というお寺をご存じでしょうか。京都に関するガイドブックでもあまり大きく取り上げられていないため、知らないという方も意外に多いと思います。

庭外にある山等の景物を庭園の構成要素として取り入れることを「借景」といいますが、円通寺はこの「借景」で有名なお寺です。20畳ほどある寺の

座敷から庭園を見ると、座敷の外にはまさに自然の景色を借りて描かれた1枚の屏風絵のような庭が広がっています。円通寺の庭は、遙か遠くにある比叡山の姿までを借りて作られているのです。苔が青々と生えている枯山水の庭もそれだけで十分美しいですが、何と

言っても庭の奥に広がる比叡山の姿に驚かされます。私自身これほどにまで雄大な比叡山を見たのは初めてでした。建築にあたってはおよそ12年の歳月をかけ、後水尾天皇が比叡山が最も形よく見える場所を探し求めた末、比叡山の真東にあたる現在の場所に建てられたそうです。室内の柱や庭にある杉の木の間隔も、比叡山や庭園との関係から完璧に設計されています。座敷に座って比叡山を見ていると、日々の煩わしいことなどどうでもよくなる感じがします。

しかし、この見事な借景も開発による打撃を受け、徐々に失われつつあります。行政により寺の近隣地域の開発が許可され、現在大規模な区画整理事業が寺の周囲で行われているのです。2005年3月にこの事業が完成したときには、庭園と比叡山との間に広がる竹林の隙間から住宅の一部が見えてしまう可能性が高く、借景に影響を及ぼすことは必至なのです。同寺は従来撮影は一切禁止だったのですが、住職の

借景を記録に残して欲しいという思いから、現在、庭園のみの撮影が許可されています。また、開発業者の車両通行による騒音等で、寺の静寂は既に失われている状態です。円通寺の周りは一応条例によって風致地区に指定されており、高さ規制があるため10メートル以上の建物を建てることができないようにはなっています。京都市は現在のこの規制で借

景は維持できると考えているようですが、京都にあった他の借景が次々と破壊されてきた流れからすれば、円通寺だけを楽観視することはできません。同寺の住職もこの借景の保全に尽力されているようですが、「借景」という特性が日本人にはあまり理解されないこと

を嘆いておられました。確かに、開発との関係で「借り物」をどこまで保護するのかという問題はありますが、長年保存されてきた借景があとわずか2年で失われてしまうことに、私自身とてもやりきれない思いを持ちました。

円通寺の座敷の壁には、同寺の借景の素晴らしさと近隣開発に対する警告を書いた新聞の切り抜きが、多数貼ってあります。その切り抜きの中に、「アメリカ人は京都を戦争から救った。いま日本人が京都を壊そうとしている。」という一文がありました。今までは静寂を守りたいとの思いから、観光客に対するアピールを全くしてこなかった円通寺。その円通寺が、この借景を保存して欲しいとって観光客による撮影を許可した点に、寺の危機感が表れています。みなさんも、一度円通寺を訪れてみてください。あの借景がひとりでも多くの日本人の目に触れることが、借景の保存につながるまずは第一歩ではないかと思います。

